

やすらぎ通信

みどりの葬祭 Vol.63

Monthly Funeral Information NOVE/2021

令和3年
11
月号

0120-31-2774 やすらぎホールみさと 仏事相談**随時**承り中
お電話頂ければ専門スタッフがご自宅へ出向いてのご相談も承ります

仏衣 感謝の気持ちを込めて



故人様へ、ご家族様より
お供物として、お供え
いただくことも可能です。

故人の最期を輝かせる仏衣

最期のお召し物にふさわしい仏衣。
常識を取り払った総柄の仏衣や、着物仕立ての縫製など、
最期のお召し物として、その人を輝かせることができる仏衣。



日本の春をやさしく描いた京友禅の仏衣。



武士をイメージした力強く、男らしい仏衣。

■生活の中の仏教語

仙台市若林区
昌林寺住職

曹洞宗布教師
松山宏佑

『樹木葬(基)と永代供養(塔)と墓塔』〈前編〉



最近、宗派を問わず寺院名による業者主体の樹木葬が多くみられる。日本における伝統的な和型(タテ型)のお墓が主流であったが、20年前ぐらいから洋型(ヨコ型)のお墓が建てられるようになった。宮城県では宮城県沖地震後から、耐震度が高いという理由もあり普及したと思われる。

ところで、和型・タテ型のお墓の成り立ちを詳しくご存じの方はどれくらいいらっしゃるだろう。あの竿石などとも呼ばれる縦に長い形式は、昔の殿様などのお墓にみられる「五輪塔(ごりんとう)」のうち四輪(形)を略した「長形」の部分にあたる。そこに、例えば〇〇家先祖代々之墓などを篆(てん)(点(てん))刻(こく)した(彫った)ものという、仏教(ないし)古来の考え方に基づいての形であることをご存じの方は、意外と少ないのではないだろうか。因みに、元々の五輪塔は空風火水地を形にあらわしたもので、お釈迦様の体にみたとて『頂(団形)、面(半月形)、胸(三角形)、臍(円形)、膝(方形・長方形)』となり、色で表すと上から黄、白、赤、黒、青色で表すことが多い。この5色は、お盆供養(くよう)幡(ぼた)の色でもある。この5つを文字であらわすと『キャ、カラ、バ、ア』(梵字は略)となり、この5つに対応する体の部位を地面に着け、ひれ伏す行為をインドでは五体投地といい、仏教徒の最大の教(きょう)礼(らい)方(ほう)といわれる。(日本の禅宗においても坐具と呼ばれる敷物の上にて、同様に3度礼拝する。)

和型・タテ型以外の形式として近年普及し始めた洋型(ヨコ型)のお墓をはじめ、その他にも芝生墓地や散骨など様々な“墓葬(ぼそう)”の形式があるが、最近よく話題になるのは樹木葬である。私のお寺にも5~6年前より問い合わせを頂くようになった。曰く「子供がいても遠方の地に家を建て、郷里には戻らない。」とか、「子供には迷惑をかけたくない。」、「配偶者の死後は同じお墓に入りたくない。」、「亡くなった後墓を継承する者がいない。」、「生家(実家)のお墓に入ることは考えていない。」等の内容で、樹木葬をキーワードとして挙げられるものの、先祖代々のお墓を建立または維持することの難しさをご相談なさるのが実態である。

そのような相談をきっかけとして私のお寺では平成30年(2018年)3月より檀徒総代や寺世話人の方々と、仏教の教えや考え方によるならば、と検討会を持ち始めた。まずは皆で先行事例と思われるお寺さんに伺い、現地を見て考え方や体験談をお聞きした。次に、タイミングが重なったことだが「これからの葬祭のあり方と永代供養について」というセミナーに、これ幸いと総代さん方とともに拝聴に赴いた。他にも、お寺向け商品・サービスの電話営業をしてきた業者にも、来寺を要請してこちらから質問などをした。その後2年間にわたり計40回ほど総代・世話人有志の方々と相談を重ね、寺檀協働により令和2年(2020年)5月に『みんなの塔』という名称にて合葬・合祀・永代供養塔建立となった。〈次号に続く〉